



海の道むなかた館夏の企画展 むなかたの漂着物展 海流のチカラ

昔、宗像大社では漂着物を利用していたことを知っていますか？ 現在では、あまり見かけられませんが、戦後の高度経済成長期前までは宗像の海岸でも近隣の住民はよく利用していました。海の道むなかた館では、夏の企画展として宗像の漂着物を紹介します。

問い合わせ先 郷土文化課 ☎(02)2600

漂着物展を 見に行こう

日時 7月20日(水) 9月4日(日)
場所 海の道むなかた館

さまざまな漂着物について実物を交えながら、パネルで紹介します。



満潮線にたまる漂着物

また、浜辺を歩く機会があれば、ぜひ辺りを見渡してください。おもしろい発見があるかもしれません。人工物のペットボトル、ビニール袋、壊れた漁労具、原油は、環境に悪影響を与え、生態系を破壊してしまいうこともありま。例えばウミガメが、ビニール袋を大好物であるクラゲと間違えて食べ、消化されないために、空腹を感じないまま過ごし、餓死してしまつたとの報告もあります。

さまざまな漂着物

漂着物といえば、ヤシの実や手紙の入った瓶などロマンを感じるものを思い浮かべますが、実際には自然物・人工物を問わずさまざまなものが漂着し、人々はその利用しています。

漂着物を 宗像大社も活用

自然の流木や船体は建材や燃料として、無事な積荷はそのまま商品として利用されたのでしよう。クジラが寄せられれば、食料・燃料・工芸品の材料などに利用され、1頭で7つの浦(漁村)が持ち、その収益を神社本

宗像大社に伝わる国指定重要文化財である『宗像神社文書』の中には、その昔、現在の遠賀郡芦屋町の芦屋漁港付近から糟屋郡新宮町の新宮漁港付近までの約45キロの区間に漂着した船舶や、その積荷の所有権を宗像大社が持ち、その収益を神社本

社とは別の撰末70余社の修繕費に使つていたとの記録が残っています。

小さな厄介者

マイクロプラスチックと呼ばれる大きさ5ミリのプラスチック片です。1970年代に初めて発見され、海中に漂っている有害物質を吸着・濃縮していることが問題になっていま

す。大きさを魚卵と間違えて小魚が食べ、その小魚を大型魚類や鳥類が食べ、最終的に人間の体内へと摂取される可能性が指摘されています。

漂着物学の創始者 石井忠さん

漂着物の研究で、福津市在住だった故石井忠さんの業績は、目を見張るものがあります。高校教師として生徒を指導しながら、ライフワークとして自宅近くの

海岸を毎日のように歩き、さまざまな漂着物を収集・分類しました。石井先生は、集めた漂着物から歴史や文化を読み解いていく「海浜漂着物文化論」を提唱し、漂着物を学問の域にまで押し上げました。2001年には7人の同志と共に、漂着物学会を設立して初代会長に就任。市では、旧大島村民具資料館や旧玄海町民俗資料館の

展示指導や漂着物の寄贈を受け、市文化財保護審議会の会長も務められました。(文化財職員・坂本雄介)



イコモス現地調査と 世界遺産登録

8月から9月にかけてイコモス(国際記念物遺跡会議)が、来年夏の世界遺産登録を目指す「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群の現地調査を実施します。イコモスは、ユネスコ世界

遺産委員会の諮問機関で、歴史的な建物などの保存に対する研究を目的とした専門機関です。その現地調査では、今年1月、政府がユネスコに提出した推薦書と包括的保存管理計画を踏まえ、資産をどのよう

に守っていくか、地域住民がこの遺産とどのように関わっているか、登録後の来訪者の増加に對しどのように対応するかなど、数日をかけて調査されます。この現地調査結果を踏まえ、イコモス内で本遺産群を専門的見地から審査し、資産の価値とあわせて来年5月ごろに勧告が出され、7月ごろ開催

される世界遺産委員会で決定されます。この現地調査に向け、5月に第1回目のシミュレーションを実施しました。シミュレーションでは、実際の調査しながら、各構成資産の特徴、管理体制などについて質疑応答を重ね、夕方の会議で「良かったところ、注意すべきところ」などについてアドバイスを受けました。これまで地域住民によって守られてきたこの遺産を、将来世代に伝えて引き継いでいく決意をイコモスに伝えることが、登録への鍵となります。



問い合わせ先 世界遺産登録推進室 ☎(36)9456

屋根・外壁塗装はお任せください!!
プロタイムズ福岡北店 株式会社フクモト工業
宗像市自由ヶ丘11-22-3 自由ヶ丘ヒルズ・楓

宗像ユリックスでお家の屋根・外壁
塗装リフォーム相談会!!
宗像ユリックス 〒811-3437 福岡県宗像市久原 400
日時 7/17日・7/18日 両日10:00~16:00 参加費無料